

平成 31 年度
履修証明プログラム

デスティネーション・マネージャー
育成プログラム

募集要項

平成 3 1 年 1 月
大学院国際広報メディア・観光学院

目 次

1. 趣 旨	1
2. 目 的	1
3. 養成される人材像	2
4. プログラムの概要	2
5. 教育プログラム	2
6. 募集人員	5
7. 履修資格	5
8. 申し込み期間および申し込み書類提出先	5
9. 申し込み手続き	6
10. 履修許可について	6
11. 履修許可者の発表	6
12. 履修手続き	7
13. 自治体・観光協会等に所属している方向けの支援制度について（検討中）	7
14. そ の 他	7
15. 各授業科目の概要	7

【添付書類】

- ・ 願書
- ・ 志望理由書
- ・ 履歴書

平成 31 年度履修証明プログラム
DESTINATION・マネージャー育成プログラム
募集要項

項 目	期 日
募集期間 (※)	平成 31 年 1 月 21 日 (月) ～1 月 25 日 (金)
書類選考	平成 31 年 1 月下旬～2 月初旬
履修許可者発表	平成 31 年 2 月 25 日 (月) 10:00 頃

(※) 本学の学生で本プログラムを申請しようとする者は、本学院の履修登録期間にプログラムの修了要件を満たす全ての授業科目を必ず履修登録しておくこと。事後の追加は一切認められないので注意してください。

1. 趣旨

平成 19 年の学校教育法の改正により、大学、大学院、短期大学、高等専門学校、専門学校（以下「大学等」という。）における「履修証明制度」が創設・施行されました。

大学等では、これまでも科目等履修生制度や公開講座等を活用して、その教育研究成果を社会へ提供する取組が行われてきたところですが、より積極的な社会貢献を促進するため、学生を対象とする学位プログラムの他に、社会人等の学生以外の者を対象とした一定のまとまりのある学習プログラム（履修証明プログラム）を開設し、その修了者に対して法に基づく履修証明書（Certificate）を交付できることとしました（法第 105 条等）。

※文部科学省ホームページ「履修証明制度」

http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/shoumei/

本学院の履修証明プログラムは、当該制度に基づき開設されたもので、より多くの皆様が本プログラムを活用いただき、キャリアアップや、より実践力を身に付け観光地域づくりに貢献していただけるよう、以下の通り開設するものです。

2. 目的

地域が自律的かつ戦略的な観光振興に取り組む上では、経営的な視点から観光まちづくりを推進し、同時に域内外の多様な主体との協働のあり方や複雑な利害関係を調整する役割を担う DMO（Destination Management Organization）の存在が必要不可欠であり、観光庁は 2015 年より日本版 DMO の形成・確立を支援することを目的にその候補となりうる法人「日本版 DMO 候補法人」の登録を進め、2018 年 12 月には、その中から 102 法人を「日本版 DMO」として改めて登録しました。

これに基づき、本プログラムは、地域資源の発掘から実際の誘客に至るまでの観光地域

づくりの各プロセスについて、専門的な知識を身につけると同時に、地域の現場においてこれらを活用するための実践的な技能を習得した人材を育成することを目的とします。

3. 養成される人材像

主に「日本版 DMO」、「日本版 DMO 候補法人」および今後その登録を目指す各地域の観光協会、事業者組合、商工会、NPO 等において中核を担う人物を対象とし、行政や観光関連事業者、地域住民との緊密な連携・協働のもとで観光振興のための合意形成や政策立案等を主体的に担える人材を養成します。

4. プログラムの概要

本プログラムでは、効率的・効果的な教育を実施するため4学期制を導入し、理論・知識の習得から、実践的な技能の習得へのスムーズな移行を目的として、「専門共通科目」から「専門科目」へと段階的に学ぶ体系をとります。観光分野全般にわたる専門的知見を身につける必要から、国際広報メディア・観光学院（国際広報メディア・観光学専攻）開講の正規科目を中心に全体を構成し、その中でも特に実務的な専門性と実践性に照準をあわせた高度なレベルの科目を精選して受講します。また、さらに高い専門性と実践力の養成をはかるため履修証明プログラム独自開設の「実践講習」科目を受講します。

具体的には、必修科目として前期の後半（夏学期）に観光分野に関する基礎的概念の理解を深める「地域と観光」を履修し、前期の前半（春学期）から主として専門的な理論や実践的な技能の習得を目的とした「観光地域ビジネス論演習」を履修し、これらの科目と並行して、前期の後半（夏学期）では観光振興の幅広い分野における理論・知識を習得する「専門共通科目」を選択し履修します。さらに後期には、より高度な理論や実践的な技能を身につけることを目的とした「専門科目」である「観光地域マネジメント論演習」、「観光事業マネジメント実践講習」（いずれも必修）の受講により、実際の DMO の組織構築・運営、あるいは観光商品の造成等について、具体事業の運営についてフィールド実習等を通じて実地または模擬的に体験し、最終的に観光地域づくりの「現場」で即戦力として活躍しうる人材を養成します。

なお、本プログラムにおける「専門科目」は、基本的に、実践的な専門性の養成という目的に合致するよう、フィールド実習型や PBL (Project-Based/Problem-Based Learning)、TBL (Team-Based Learning) 型の学修形態となります。

なお、本プログラム修了者に対して、教育プログラムの内容と質を保証した「履修証明書」を交付し、併せて、本学院が課した課題を終え一定の条件を満たした受講生には「デスティネーション・マネージャー」の称号を授与します。

5. 教育プログラム

- (1) 受講期間：1年
- (2) プログラムのカリキュラム

区分		授業科目	単位 相当数	備考		
DESTINATION・マネージャー 育成プログラム	必修 科目	地域と観光	1	国際広報メディア・観光学院開 講科目	1. 必修科目 6単位相当を修得 すること。 2. 選択必修 科目のうち、専門 共通科目 から2 単位相 当、専門 科目から 4単位相 当、合計 6単位相 当を修得 すること。	
		観光地域ビジネス論演習	2			
		観光地域マネジメント論演習	2			
		観光事業マネジメント実践講習	1	履修証明プログラム講習科目		
	選択 必修 科目	[専門共通科目]				
		メディア文化と観光	1	国際広報メディア・観光学院開 講科目		
		情報メディアと観光	1			
		広報とマーケティング	1			
		[専門科目]				
		インバウンド・ツーリズム論演習	2	国際広報メディア・観光学院開 講科目		
		観光デザイン論演習	2			
		地域創造論演習	2			
		観光マーケティング論演習	2			
		サービス産業広報論演習	2			
		コンテンツ・ツーリズム論演習	2			
世界遺産マネジメント論演習	2					

(3) 授業の場所と時間

① 場 所：北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院

ただし、フィールド実習の場合には、実習先となります。

② 時 間：「履修証明プログラム時間割」のとおり

※大学院設置基準第14条は、「大学院の課程においては、教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。」旨規定しています。

本学院では、これまで高度な専門職業人の養成と有職者の再教育について多くの実績を挙げてきましたが、この第14条を一部の授業科目に適用し、社会の需要に応えられるような教育、研究活動の充実を図っています。

(4) 開講式・ガイダンス

平成31年4月2日(火) 16時～17時(予定)

(5) 講義日程

プログラムにおける授業科目は、本要項に添付の「履修証明プログラム 授業時間割」の曜日・講時で原則実施する予定です。

なお、時間割については、現時点では暫定版（予定）のため、今後、変更になる可能性がありますことを、予めご了承ください。

第Ⅰ・Ⅱ学期（春・夏学期）の「観光地域ビジネス論演習」、「インバウンド・ツーリズム論演習」、また、第Ⅲ・Ⅳ学期（秋・冬学期）の「観光地域マネジメント論演習」、「観光事業マネジメント実践講習」については、以下に記載のとおりです。

授業科目名	開 講 日	備 考
観光地域ビジネス論演習	4月21日（日）3～4講時、5月18日（土）3～4講時、5月19日（日）3～4講時、6月22日（土）フィールド実習、7月27日（土）3～4講時、7月28日（日）3～5講時	集中講義
インバウンド・ツーリズム論演習	第Ⅰ・Ⅱ学期（春夏学期）の毎週、月曜日5講時。ただし、フィールド実習を6月28日（金）～6月29日（土）1泊2日で行う予定です。	基本的に「履修証明プログラム時間割（仮）」どおり月曜日5講時で授業を行いますが、以下の日程で、フィールド実習を実施する予定です。6月28日（金）～6月29日（土）1泊2日 池田町
観光地域マネジメント論演習	9/26（木）、10/3（木）、10/10（木）、10/18（金）・19（土）・20日（日）フィールド実習（2泊3日）、10/24（木）、10/31（木）、11/15（金）・11/16（土）フィールド実習（1泊2日）、11/21（木）、11/28（木）、12/5（木）、12/12（木）	基本的に「履修証明プログラム時間割（仮）」どおり木曜日5講時で授業を行いますが、以下の期間については学外でのフィールド実習を予定しており、旅費（交通・宿泊費等）として一部受講者の自己負担が生じますので予めご了承ください（上限各1万円）。 ①10/18（金）～10/20（日）2泊3日 中標津町 ②11/15（金）～11/16（土）1泊2日 余市町
観光事業マネジメント実践講習	10/5（土）3～4講時、10/6（日）2～4講時、10/12（土）2～4講時	集中講義

※上記の日程及び、フィールド実習の場所に変更する場合がありますので、ご承知おきください。

(6) 受講料 177,600円（本学の学生は14,800円となります。）

※本受講料は履修証明プログラムの修了要件となる受講時間数に基づき、各授業区分が求める最低修得単位数相当の合計単位数相当（12単位相当）により算出しております。よって、12単位相当以上の授業科目を履修する場合には、1単位相当につき14,800円の受講料が加算されます。

※フィールド実習の旅費は、別途自己負担が生じます。

(7) 履修証明書の交付

特論、演習、実践講習の総時間数 138 時間以上を受講し、かつ、各科目の試験に合格した受講生には修了を認め、履修証明書を交付します。

※本プログラムは受講した授業科目を単位認定するための制度ではありませんので、ご注意願います。(本学院の学生以外の受講生には、各授業科目の単位認定はされません。)

6. 募集人員 5名

7. 履修資格

北海道大学大学院通則第 10 条第 1 項に規定する者、またはそれに相当する学力を備えていると国際広報メディア・観光学院教授会が認めた者とする。

①大学を卒業した者

②個別の資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22 歳に達した者

※②により申し込みをしようとする者は、事前にメディア・観光学事務部教務担当まで連絡してください。

8. 申し込み期間および申し込み書類提出先

(1) 申し込み期間

平成 31 年 1 月 21 日 (月) ~1 月 25 日 (金)

※直接持参の場合は、土・日・祝日を除き 9 時から 16 時 00 分まで受け付けます。

※郵送の場合は書留郵便とし、封筒の表に「履修証明プログラム申込書在中」と朱書し、郵便事情を考慮のうえ 1 月 25 日 (金) 必着で送付してください。

※本学院の学生の申し込み期間は、4 月 1 日 (月) ~4 月 5 日 (金)、郵送の場合は、4 月 5 日 (金) 必着で送付してください。

※本学院の学生で本プログラムを申請しようとする者は、履修登録期間にプログラムの修了要件を満たす全ての授業科目を必ず履修登録すること。履修登録期間以降の追加登録は一切認められないので注意してください。

(2) 申し込み書類提出先

〒060-0817 札幌市北区北 17 条西 8 丁目

北海道大学メディア・観光学事務部教務担当

9. 申し込み手続き

(1) 申し込み書類等

提出書類等	注意事項
願 書	所定の受講申込書、志望理由書、履歴書に、必要事項を記入してください。また、希望する履修科目については、指定された欄に○印を付記してください。
志 望 理 由 書	所定の用紙により、受講したいと考えた動機、目的および修了後の希望などを2,000字程度で記入してください。
履 歴 書	所定の用紙により、学歴、職歴等を記入してください。
受付番号通知書等 返信用封筒	市販の長形3号(長3)封筒に、受信場所(郵便番号、住所、氏名)を明記し、82円分の切手を貼付して提出してください。
そ の 他	日本に国籍を有しない者は、「在留カード」の写し(両面)を提出してください。

(2) 申し込みにあたっての留意事項

- ①申し込み書類の不備なものは受理しませんので、記載事項に記入漏れ、誤記のないよう十分注意してください。
- ②受理した申し込み書類は、受講者決定に関わる目的以外には使用しません、いかなる理由があっても返還しません。
- ③申し込み後、受講申し込み票に記載の「現住所」に変更があった場合は、速やかに連絡してください。
- ④本学院にて申込みを受付した後、「受付番号通知書」を返信用封筒にて郵送します。

10. 履修許可について

履修許可については、書類審査により決定します。

ただし、本学院が必要と認めた場合に限り、書類審査と併せて個別に面談を実施する場合があります。

面談が必要な場合には、申請者に個別に連絡の上、面談日を調整します。

11. 履修許可者の発表

履修を許可された者には、平成31年2月25日(月)10時に、北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院玄関ロビーに受付番号を掲示及びホームページに掲載するとともに、「履修許可通知書」を送付します。なお、電話による許可・不許可の問い合わせには応じかねます。

※北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院ホームページ

<https://www.imc.hokudai.ac.jp/>

※本学院の学生への発表は、平成31年4月11日（木）10時に、北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院玄関ロビーに受付番号を掲示します。

12. 履修手続き

履修手続きの詳細については、「履修許可通知書」に同封します。

13. 自治体・観光協会等に所属している方向けの支援制度について（検討中）

本学院との連携協定に基づき、公益財団法人はまなす財団では自治体・観光協会等から本履修証明プログラムに参加される方を対象に受講料等についての支援を検討中で、本支援制度については1月15日以降に同財団ウェブサイトにて詳細が発表される予定です。詳細は下記ウェブサイトをご覧ください。担当者までお問い合わせ下さい。

〒060-0005 札幌市中央区北5条西6丁目 札幌センタービル15階

公益財団法人はまなす財団 事業産業部 担当：小倉

TEL：011-205-5011 E-mail：info@hamanasu.or.jp

URL：<https://www.hamasu.or.jp/>

14. その他

ご不明な点があれば以下にお問い合わせ願います。

〒060-0817 札幌市北区北17条西8丁目

北海道大学メディア・観光学事務部教務担当

TEL：011-706-5137／FAX：011-706-7801

E-mail：kyomu@imc.hokudai.ac.jp

15. 各授業科目の概要

(1) 必修科目

・地域と観光（12時間、1単位相当）

従来型の観光の歴史、構造、用語、特徴、課題などの事項を理解したうえで、これからの社会・経済・文化に適合した新しい観光地域づくりの基本概念や方向性について考察すると共に、DMO人材が必要とする観光研究の持つ多様性、広範囲な研究分野の全体像についての理解を深める。

・観光地域ビジネス論演習（22.5時間、2単位相当）

「観光を地域活性化の切り札に」——訪日インバウンド3,000万人時代が到来し、地方創生の中心的役割を果たす日本の観光振興。本授業は、JTBに在籍する実務家教員が担当し、多様な観光の理論、メソッドを理解すると共に、国内外で実施されている観光・地域活性化の具体的事例をケーススタディーや地域でのフィールドワークを通じて学ぶ。理論と実態に対する複眼的視点を持って、今後各地で観光地域活性化を実践できるDMO人材が備えるべき実践的知識とスキルの修得を目的とする。

・ **観光地域マネジメント論演習（22.5時間、2単位相当）**

農村漁村のような観光以外の産業が主産業となっている地域への観光の導入手法、地域住民の合意形成についての実践的な技能を座学とフィールド演習の双方を通じて習得する。フィールド演習は、根室管内中標津町及び他一地域を予定しており、いずれも行政へのヒアリング、観光関連産業従事者や地域住民との意見交換を現地にて行い、グループワークを通じて具体的な政策立案や事業企画を模擬的に作成、提案（プレゼンテーション）するところまでを行う。プログラム全体の中核的科目として、DMOの即戦力となりうる知見と技能を身につけるための実践性の高い内容の演習である。

・ **観光事業マネジメント実践講習（12時間、1単位相当）** [履修証明プログラム講習科目]

現役の旅行会社商品企画担当と航空会社営業担当の2名が講師をつとめ、観光関連事業のマネジメントをテーマに、主に商品化プロセスや流通に関する実践的講習を行う。観光事業に関する体系化された知識や理論に留まらず、業界の慣習や最新の市場動向等にも触れながら、DMOが観光関連事業を立ち上げ、運営していくための実践的なノウハウを習得することを目的とする。

(2) **選択必修科目** [専門共通科目]

・ **メディア文化と観光（12時間、1単位相当）**

人や情報のモビリティがますます高まる現代社会における、メディア文化と観光との関係性を多角的に捉える基本的視座を習得することを目的とする。具体的には、観光現象を、メディアを取り巻く文化現象、すなわちメディア文化の文脈から捉えなおすことで、ボーダレスなコミュニケーションや文化越境の進展が具体的場所に結びつきながら展開している現代の状況を読み解く力を身に付けることにより、DMO人材としての視野を広げるための理論的知見や視座を培う講義である。なお、本講義は6名の教員によるオムニバス方式で実施する。

・ **情報メディアと観光（12時間、1単位相当）**

デジタル化やサイバー化が進展する現代の情報メディア環境に即応した、観光（ツーリズム）分野への新たなメディア活用のあり方について、現代社会における高度情報化とメディアを巡る諸現象に関する理論的背景や技術的問題、あるいは具体的な実践事例とその課題等の多面的な検討を通じて、基礎的な知見や論点を習得することにより、DMOが担うメディア戦略や具体的な事業の基盤となるメディアへの理解を深めることを目標とする。授業は講義形式（ゲスト講師を招いての対話型も含む）及び質疑応答、ディスカッションにより双方向的に進める。

・ **広報とマーケティング（12 時間、1 単位相当）**

生産する商品やサービスをいかに市場に広めていくのか（マーケティング）、そのために情報という領域においていかに消費者を含めたステークホルダーとの関係構築を図っていくのか（広報）は、組織運営にとって死活的な問題となっている。現代においては、営利を目的とする組織のみならず、非営利組織にとっても、マーケティングと広報は必須の課題である。本講義は4名の教員によるオムニバス方式で実施し、DMO人材にとり不可欠なマーケティングと広報、そして広告の基礎を学び、組織の市場戦略の基本を身に付ける。

(3) **選択必修科目【専門科目】**

・ **インバウンド・ツーリズム演習（22.5 時間、2 単位相当）**

訪日外国人市場は今やデスティネーション・マーケティングにおける最重要市場の1つであり、多くの地域が当該市場を対象とした取り組みを行っているが、その重要性の一方で、各地域の戦略や事業は総花的で他地域に類似したものも多い。本演習では、デスティネーションとしての我が国を俯瞰し国際観光市場におけるその競争力を客観的に評価するための視点を養うとともに、実際に国内の各地域における特徴的な取り組みのレビューを通じて、主として政策論からインバウンド観光振興のあり方を考察する。

・ **観光デザイン論演習（22.5 時間、2 単位相当）**

DMOが備えるべき、文化資源マネジメントによる観光まちづくりや国際協力などの考え方について豊富な事例研究の蓄積の解説を通して学ぶ。具体的には、観光デザインの枠組みとしての「問題」と「課題」、「計画」と「デザイン」の違いを整理し、ツーリズムの異文化交流現象としての本質を支えるインタープリテーションについて理解する。続いて観光まちづくり論としての「遺産創造」やエコミュージアム、PPP（官民協働）、CBT（コミュニティ基盤の観光開発）等の考え方を理解し、DMOによるツーリズム開発が資源マネジメントに果たす上での役割と課題について、国内外の自然・文化・無形遺産を資源とする観光目的地の事例および観光学高等研究センターが取り組んできたJICAの観光開発国際協力プロジェクトの事例に基づいて学び考える。

・ **地域創造論演習（22.5 時間、2 単位相当）**

東日本大震災やスマトラ地震など、自然災害による観光への影響は甚大なものである。本演習では国内外の、地震、津波、暴風雨、洪水、噴火、斜面崩壊、干ばつなどの自然災害の事例に基づき、地域が有する自然災害に対する脆弱性を評価する手法と、レジリエンス（自然災害に対する地域の抵抗力）を高めるための方策について学び、DMOが地域の自然災害リスクを検証するための技能や観光による復興・防災の具体的な手法を身につけることをその目的とする。

・観光マーケティング論演習（22.5時間、2単位相当）

DMOの活動に不可欠な「マーケティング」について、最新の理論・手法を学び、それを応用した「デスティネーション（観光目的地）マーケティング」の体系（目標設定、内外環境調査、市場戦略、マーケティングミックス計画、実行、評価）と内容を理解する。また、グループワークにより特定地域の「デスティネーション・マーケティング・プラン」を模擬的に作成・発表することを通して、実践的知識とノウハウを身に付ける。

・サービス産業広報論演習（22.5時間、2単位相当）

サービス産業における品質管理概念に基づき、機会損失が企業の業績へ及ぼす影響力を理解し、その望ましいマネジメント方法を広報活動と結びつけて考察することを目標とする。そのため、サービス産業に関する全般的な知識やサービス品質の基礎概念及びその測定方法、そして品質管理手法の1つである品質コストマネジメントの概念を徹底的に学習する。授業は基本的に関連研究及びテキストの輪読形式で進めていく。なお、受講生の関心領域に配慮し、事例に関してはDMOと密接な接点を持つ宿泊業を主に扱う。

・コンテンツ・ツーリズム論演習（22.5時間、2単位相当）

アニメ、マンガ、小説、映画等のコンテンツ（作品）が地域資源とどのように結びつき特定の場所に人々を惹き付けるのかという論点に基づき、コンテンツ・ツーリズムの具体的な推進手法について学ぶ演習である。具体的な事例に基づく学習を通じてコンテンツ・ツーリズム推進のプロセスや多様なアクターの関係性について論じ、DMOに求められるコンテンツ・ツーリズム推進の技能を習得する。

・世界遺産マネジメント論演習（22.5時間、2単位相当）

世界遺産は資源の「（顕著な）普遍的価値」を説明してはじめて登録が実現するものであり、その価値説明を担保する「完全性 integrity」と「真正性 authenticity」の概念は地域のあらゆる資源に対して有用なものである。本演習では実際に世界遺産に申請し登録された事例（明治日本の産業革命遺産、長崎の教会群、富士山など）の申請図書（nomination document）に基づき、地域資源の価値説明に資する論理（組み立て）や構成資産の取舍選択手法等を実践的に学ぶ。

履修証明プログラム 「デスティネーション・マネージャープログラム」 受講申込書

年 月 日

北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院長 殿

フリガナ				写 真 出願3ヶ月以内に 撮影された、正面 上半身無帽のもの。 全面貼付すること。		
氏 名						
英語表記	(Family, First, Middle)					
生年月日	昭和・平成	年	月 日 生			
本籍(国籍)				男 ・ 女		
現住所	(〒 -)			TEL		
電子メールアドレス						
緊急連絡先 (父母等)	フリガナ			本人との関係		
	氏 名					
	住 所	(〒 -)				
	勤務先					
履修する授業科目名 ※履修する授業科目名の左欄(太枠)に ○を付してください。		単位 相当数	開講期	担当教員	備考	
必修 科目	<input type="radio"/> 地域と観光	1	II	西山徳明 他	7単位相当	
	<input type="radio"/> 観光地域ビジネス論演習	2	集中	JTB		
	<input type="radio"/> 観光地域マネジメント論演習	2	III・IV	木村宏		
	<input type="radio"/> 観光事業マネジメント実践講習	1	集中	大岩直美・山脇亘一		
選択 必修 科目	共通 科目	メディア文化と観光	1	II	山村高淑	1単位相当 (1科目) 選択すること
		情報メディアと観光	1	II	清水賢一郎	
		広報とマーケティング	1	II	渡邊浩平	
	専門 科目	インバウンド・ツーリズム論演習	2	I・II	石黒侑介	4単位相当 (2科目) 選択すること
		観光デザイン論演習	2	I・II	西山徳明 他	
		地域創造論演習	2	III・IV	下休場千秋	
		観光マーケティング論演習	2	III・IV	北村倫夫	
		サービス産業広報論演習	2	III・IV	張ジュヒョク	
		コンテンツ・ツーリズム論演習	2	III・IV	山村 高淑	
世界遺産マネジメント論演習	2	III・IV	西山徳明			

(/ 教務委員会 ・ / 総務委員会 ・ / 教授会に付議予定)

志 望 理 由 書

氏名

履 歴 書

区分	在学等の履歴	学校名・会社名等
学歴	昭和・平成 年 月	高等学校卒業
	昭和・平成 年 月	大学入学
	昭和・平成 年 月	大学 学部 学科卒業(見込)
	昭和・平成 年 月	
	昭和・平成 年 月	
	昭和・平成 年 月	
職歴	昭和・平成 年 月～昭和・平成 年 月	
	昭和・平成 年 月～昭和・平成 年 月	
	昭和・平成 年 月～昭和・平成 年 月	
	昭和・平成 年 月～昭和・平成 年 月	
賞罰	昭和・平成 年 月	
	昭和・平成 年 月	

※現職を退職予定の場合はその旨記載すること。

上記のとおり相違ありません。

年 月 日

氏名(署名)

平成31年度暦(案) (2019-2020)

		ガイダンス	入学式、 交流会等	授業開始				
4月	日	月	火	水	木	金	土	
		1	2	① 3	① 4	① 5	6	
7	① 8	① 9	② 10	② 11	② 12	13		
14	② 15	② 16	③ 17	③ 18	③ 19	20		
21	③ 22	③ 23	④ 24	④ 25	④ 26	27		
28	29	30						

10月	日	月	火	水	木	金	土	
			① 1	① 2	① 3	② 4	5	
6	② 7	② 8	② 9	② 10	③ 11	12		
13	③ 14	③ 15	③ 16	③ 17	④ 18	19		
20	③ 21	22	④ 23	④ 24	⑤ 25	26		
27	④ 28	④ 29	⑤ 30	⑤ 31				

月曜日の授業を行う日
(金曜日の授業は行わない)

5月	日	月	火	水	木	金	土	
				1	2	3	4	
5	6	④ 7	⑤ 8	⑤ 9	⑤ 10	11		
12	④ 13	⑤ 14	⑥ 15	⑥ 16	⑥ 17	18		
19	⑤ 20	⑥ 21	⑦ 22	⑦ 23	⑦ 24	25		
26	⑥ 27	⑦ 28	⑧ 29	⑧ 30	⑧ 31			

11月	日	月	火	水	木	金	土	
						⑤ 1	2	
3	4	⑤ 5	⑥ 6	⑥ 7	⑥ 8	9		
10	⑥ 11	⑥ 12	⑦ 13	⑦ 14	⑦ 15	16		
17	⑦ 18	⑦ 19	⑧ 20	⑧ 21	⑧ 22	23		
24	⑧ 25	⑧ 26	⑨ 27	⑨ 28	⑨ 29	30		

6月	日	月	火	水	木	金	土	
							1	
2	⑦ 3	⑧ 4	⑨ 5	⑨ 6	7	8		
9	⑧ 10	⑨ 11	⑩ 12	⑩ 13	⑨ 14	15		
16	⑨ 17	⑩ 18	⑪ 19	⑪ 20	⑩ 21	22		
23	⑩ 24	⑪ 25	⑫ 26	⑫ 27	⑪ 28	29		
30								

12月	日	月	火	水	木	金	土	
1	⑨ 2	⑨ 3	⑩ 4	⑩ 5	⑩ 6	7		
8	⑩ 9	⑩ 10	⑪ 11	⑫ 12	⑪ 13	14		
15	⑪ 16	⑪ 17	⑫ 18	⑬ 19	⑫ 20	21		
22	⑫ 23	⑫ 24	⑬ 25	26	27	28		
29	30	31						

7月	日	月	火	水	木	金	土	
	⑪ 1	⑫ 2	⑬ 3	⑬ 4	⑫ 5	6		
7	⑫ 8	⑬ 9	⑭ 10	⑭ 11	⑬ 12	13		
14	⑬ 15	⑭ 16	⑮ 17	⑮ 18	⑭ 19	20		
21	⑬ 22	⑭ 23	⑮ 24	⑮ 19	⑮ 26	27		
28	⑭ 29	⑮ 30	⑯ 31					

1月	日	月	火	水	木	金	土	
				1	2	3	4	
5	⑬ 6	⑬ 7	⑭ 8	⑭ 9	⑬ 10	11		
12	⑬ 13	⑭ 14	⑮ 15	⑮ 16	⑭ 17	18		
19	⑮ 20	⑮ 21	⑯ 22	⑮ 23	⑮ 24	25		
26	⑯ 27	⑯ 28	29	⑯ 30	⑯ 31			

月曜日の授業を行う日

8月	日	月	火	水	木	金	土	
					⑯ 1	⑯ 2	3	
4	⑮ 5	⑯ 6	⑯ 6	8	9	10		
11	⑮ 12	13	14	15	16	17		
18	19	20	21	22	23	24		
25	26	27	28	29	30	31		

2月	日	月	火	水	木	金	土	
							1	
2	3	4	5	6	7	8		
9	10	11	12	13	14	15		
16	17	18	19	20	21	22		
23	24	25	26	27	28	29		

9月	日	月	火	水	木	金	土	
	1	2	3	4	5	6	7	
8	9	10	11	12	13	14		
15	16	17	18	19	20	21		
22	23	24	25	26	① 27	28		
29	① 30							

3月	日	月	火	水	木	金	土	
	1	2	3	4	5	6	7	
8	9	10	11	12	13	14		
15	16	17	18	19	20	21		
22	23	24	25	26	27	28		
29	30	31						

※第8週と第9週の間で当該学期を前半・後半に分割。(点線で表示) ※開講期間(16週)のうち、授業を15回実施する。

- は授業を行う日
- は授業を行わない日
- は休講日(学院行事のため)
- は異なる曜日の授業日
- は補講日(当該日に補講を行う場合には事前申請が必要)

履修証明プログラム授業時間割

第 I / II 学期

【暫定版】

	月	火	水	木	金	土
1						
2						
3						
4						
5	インバウンド・ツーリズム論演習 ※1 石黒 侑介				観光デザイン論演習 西山 徳明	
	地域と観光 ※2	(専門共通)メディア文化と観光 ※2	(専門共通)情報メディアと観光 ※2	(専門共通)広報とマーケティング ※2		

※各講時の時間

1講時 (8:45-10:15) 、 2講時 (10:30-12:00) 、 3講時 (13:00-14:30) 、 4講時 (14:45-16:15) 、 5講時 (16:30-18:00) 、 6講時 (18:15-19:45)

※1 「インバウンド・ツーリズム論演習」は、6月28日(金)～30日(土)に、フィールド実習を実施する予定です。(予定のため、変更の可能性あり)

※2 第II学期から開講されます。詳しい日程は、「授業日程(2019-2020)」を参照してください。

◆以下の科目は集中講義(予定のため、変更の可能性あり)

(融合)「観光地域ビジネス論演習」(JTB):4月21日(日)3～4講時、 5月18日(土)3～4講時、 5月19日(日)3～4講時、 6月22日(土)フィールド実習、
7月27日(土)3～4講時、 7月28日(日)3～5講時

	月	火	水	木	金	土
1						
2						
3		コンテンツ・ツーリズム論演習 ※1 山村 高淑				
4				世界遺産マネジメント論演習 西山 徳明		
5	地域創造論演習 下休場 千秋		(融合)観光マーケティング論演習 北村 倫夫	観光地域マネジメント論演習 ※2 木村 宏		
6				(融合)サービス産業広報論演習 張 ジュヒョク		

※各講時の時間

1 講時 (8:45-10:15) 、 2 講時 (10:30-12:00) 、 3 講時 (13:00-14:30) 、 4 講時 (14:45-16:15) 、 5 講時 (16:30-18:00) 、 6 講時 (18:15-19:45)

※1 コンテンツ・ツーリズム論演習は、フィールド実習があるため、その前後の時間帯が移動時間にあてられる場合があります。

※2 観光地域マネジメント論演習は、フィールド実習があるため、下記日程で開講予定です。(予定のため、変更の可能性あり)

9/26 (木) 、 10/3 (木) 、 10/10 (木) 、 10/18(金)・19 (土) ・20日 (日) フィールド実習 (2泊3日) 、 10/24 (木) 、 10/31 (木) 、
11/15 (金) ・11/16 (土) フィールド実習 (1泊2日) 、 11/21 (木) 、 11/28 (木) 、 12/5 (木) 、 12/12 (木)

◆以下の科目は集中講義(予定のため、変更の可能性あり)

「観光事業マネジメント実践講習」(大岩直美・山脇亘一) :10/5(土)3～4講時、10/6(日)2～4講時、10/12(土)2～4講時